

施設紹介 しろにし診療所

しろにし診療所は山形市の中心部からやや西側に位置し、内科を中心とした外来診療と往診、各種健康診断や予防接種などを行っています。

現在、医師1名、保健師1名、看護師3名、事務3名で活動しています。

山形市だけでなく、近隣の市町の患者さんも多く、お子さまから高齢者の方まで幅広くご利用いただいています。「しろにし診療所に来てよかった」と感じてもらえるよう、患者さんに寄り添った看護を目指し、病気だけではなくご家族や生活のことも考えながら接するように心がけています。また、地域の健康づくり活動として、班会での健康チェックや健康についての講話なども行っており、診療所の患者さん以外の組合員さんと接する機会が多いのもしろにし診療所の特徴だと思います。

これからも、地域の皆さまの健康を共に考え、明るい街づくりへつなげていけるよう、笑顔で頑張っていきたいです。



看護職員



今年度より、学研ナーシングを導入し若手看護師の育成はもちろん、看護職員の日常学習に取り入れる予定です。

診療所あげて、看護職員の能力向上が期待されています。ラダーの導入を検討し診療所における民医連看護の実践者育成に積極的に取り組みます。

看護部会より

2020年4月… 副総師長専任となった私の業務は新型コロナウイルスの感染対策から始まりました。2020年3月31日県内に初の感染者発生。ICTや様々な会議でICDと共に幾度の話し合いをもち、前もって準備していた、新型コロナウイルス感染対策がいよいよ本格的に始動となりました。トリアージ部隊として、玄関に立ち利用者への理解と協力を呼び掛ける日々、いつまでこれが続くのか…と途方に暮れることもありましたが、4月5日鶴岡市に陽性者が出た時点から、日々正確な情報を収集し、対策の考案に追われました。対策のポイントは感染者をできるだけ院内に入れないこと（的確なトリアージ）。紛れ込んでも非感染者や職員が移らないこと（標準予防策、感染経路別予防策の順守）。職員が院外で移っても持ち込まないこと（密閉、密集、密接を避け、健康観察）です。最近では、感染拡大も収束しつつあり、対策も緩和している状況でフェーズIに下がりました。しかし、いつ、どこで、また新型コロナウイルスの感染拡大がおこるかもしれません。院内からのクラスター発生が一番避けなければなりません。ここで、気を緩めることなく、標準予防策（手指衛生、咳エチケット）新しい生活様式の遵守。必要な感染対策をしっかりと継続してこの危機を一緒に乗り越えましょう。

2020/6/23

協立病院 副総看護師長 野坂 美穂



梅雨時期のたのしみ

土門拳記念館敷地内にある紫陽花が見ごろになってきており、様々な色の花を咲かせています。種類も豊富で見応えがあります。梅雨まつり中で気持ちも滅入りがちですが、だからこそこの楽しみ方かな？傘をさして雨靴履いてそぞろ歩きも心身を癒す効果になるのでは？大輪の陰には見ることができなくなった大きなカタツムリもチラホラ。お休みの際にどうぞ・・・！

編集後記

『コロナ』も『都知事選』も大きなスクープではあるが、九州 熊本・鹿児島の大震災が心を引く。特に熊本県は土砂災害や川の氾濫など大きな被害にあわれ、球磨の特養ホームでは浸水により14人の入居者が心肺停止で見つかった。助けたくても助けられない状況だったと・・・同じように高齢者の命を・生活を守る私たちには胸に刺さる出来事であり、それぞれの形で支援していきましょう。